

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	7月	9日	(記入者) 河添正雄	
取材参加者	大谷	河添	神野	鈴木	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：日光寺の薬師如来坐像				

所在地	吉野郡下市町檜皮蔵 (阿智賀129)				
所有者 (取材 対応者) 名	日光寺 (日光寺第62代 磯矢浄昭住 職) (個人情報守秘)			連絡先 0747-52-3655 (日光寺)	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：下市町教育委員会				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	薬師如来坐像 1975(昭和50)年11月1日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	藤原和様の著しい特色を示しており、任職の話では、国宝にという話も有ったが、そのためには防火用水や収蔵庫などの縛りがきつく、町指定に落ち着いた。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	地区の高台にあり、消防車も入りにくい場所であることを地元の方も理解されており、文化財を守るために特に太い水道管が敷設しており、境内の消火栓につながっているとのこと。	地元の方々の、文化財の防災意識が高いのは素晴らしいと思う。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	近くに山が有るため、イノシシが出没するが、建造物などへの被害は無いとの事。	土地柄から小動物の出没はやむを得ない。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	檀家は200軒余りあり、県内に限らず全国に及ぶとの事。また孫の磯矢浄悠師が京都仁和寺の書記をしており、将来は戻って来て跡を継ぐ事が決まっているので、継承については今のところ心配ない。境内の清掃などはシルバーセンターに依頼することもあるとの事で、綺麗に整備されていた。本堂外観は落ち着いた趣を感じるが、内部はきらびやかで、コントラストが面白い。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題 (修復、維持、管理、環境など)

本尊の薬師如来坐像は秘仏で、1月8日のみのご開帳なので、訪問日に拝観はできなかった。文化財保護の面からは、常時公開されているよりメリットがあったと感じた。お寺の駐車場までは車一台ギリギリ通れる狭い坂道なので、万一火災になった時、消防車が通行できるか心配な面もあるが、地元の方々の理解で、特に太い水道管を敷設するなど対策が取られているのは素晴らしいと感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	7月	9日	(記入者) 河添正雄	
取材参加者	大谷	河添	神野	鈴木	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：日光寺の薬師如来坐像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 薬師如来坐像

文化財 (秘仏のため1月8日のみご開帳)      文化財 (本堂内陣。奥の厨子に秘仏の本尊)

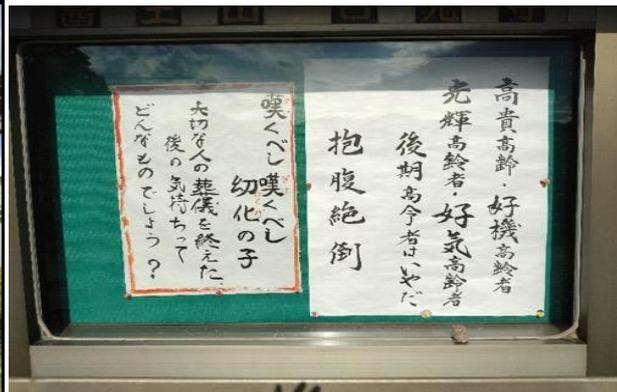


信徒会館内の写真



文化財 (本尊を祀る本堂全景)

気になる部位の写真(後期高齢者も色々)



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入

本尊の木造薬師如来坐像は、像高52.3cm。左手に薬壺を載せ、柔和な表情、おだやかな姿態、美しく整えられた法衣などすべてが藤原和様の著しい特色を示している。像内背部に「永承六(1051)年三月奉修、御舍利三粒塔一基」の墨書があり、ほぼこの頃の造像とされる。作者不詳。本尊は昔より乳を授かる御仏として、ご利益深いとされる。

下市町は我が国最初の商業手形(下市札)が発行されるなど、商業が著しく発展を遂げ、近世にかけて市場町、宿場町として賑わった。現在は箸、三宝などの木工業の町として栄えている。日光寺は寺伝によると朱鳥元(687)年、役小角の高弟角乗上人が小角自作の薬師如来を本尊として建立したとある。寛延三(1750)年に本堂、庫裏、山門等すべてを消失したため、現在の本堂は宝暦五(1755)年再建されたもの。